

生徒の自主性と考える力を育成する模擬会社設立の取組

【学校名：千葉県立市原特別支援学校つまい風の丘分校】

～取組のポイント～

会社活動を実施することで、生徒自らが決めた活動をとおして学習意欲と考える力を育成する。教師も社員の一人となって取り組み一緒に作業することで、生徒一人一人の得意な点を伸ばしながら自己肯定感を高めて主体的な活動につなげていく。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

高等部流通サービス科（流通コース）1～3年生24名（各学年8名）

(2) 教科・領域

専門教科「流通・サービス」（週14時間）

(3) 目標

目標	手立て	そのために教師が行うこと
○働くことのすがすがしさ・楽しさを味わい、自己肯定感を高める。	・やり遂げる経験（小さな成功体験）を積み重ね、達成感を味わえるようにする。	・がんばった成果が実感できる活動（トイレ清掃、床のワックスがけなど）を多く設定する。 ・人の役に立ったと実感でき、生徒も教師も本気になれる校外清掃を多く計画・実施する。 ・生徒の欠点を指摘するよりも、「こうするともっと良くなるよ」とのアドバイスを増やす。
○自分から進んで働くことができる。	・自己選択・自己決定の場面を増やす。	・分担決め：教師があらかじめ決めて伝えるよりも、「～したい人は手を挙げて？」と聞く。 ・指示をできるだけ少なくし、「どうしたらいい？」と問いかける。

(4) 学習計画

1学期	2学期			3学期	
<1・2年> 清掃用具の使い方	プロをめざして (校内清掃検定)	文化祭に向けて 調理・販売、 学習発表	会社活動②	会社活動③	体育館 ワックスがけ
<2・3年>会社活動①	3日間のみ				
トイレ清掃（(株)イエローハット創業者鍵山秀三郎氏の清掃方法に倣って）					
校外清掃（通学路・高齢者宅・庭園の除草、公民館・駅のトイレ清掃など）					

2. 実践の内容

本コースの清掃指導は、安全にきれいに早く行える国家検定に則った知識技能を基にしている。それを土台にして、上記の目標達成に向けて、会社活動を導入している。

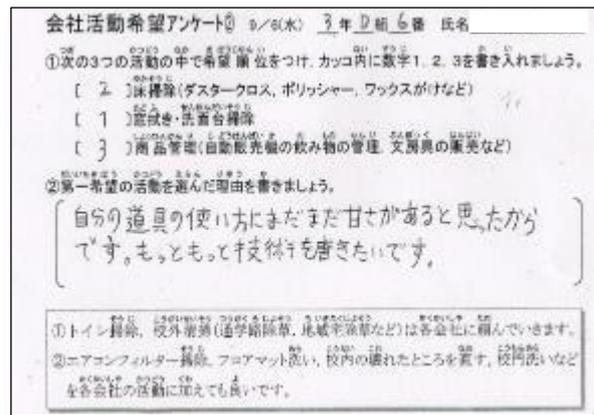
(1) 会社活動とは

自分の行いたいことで仲間を集めて会社を設立する。会社活動の内容を決めるポイントは、楽しくて生産的なこと、学校の役に立つこと。社長は生徒の中から選び、教師も社員の一人として活動する。（岩瀬 2011）

(2) 進め方

ア. 会社をつくる

各学期、各生徒にアンケートを2回ずつ取り、会社を設立。1次アンケートは予備調査で「何を行いたいのか？」を自由に書いてもらう。それをまとめて2次アンケートの選択肢とする。その結果で全生徒をグループ分けする。次に、教師に担当希望を聞き、グループを編成する。各グループは生徒4名と教師1名。



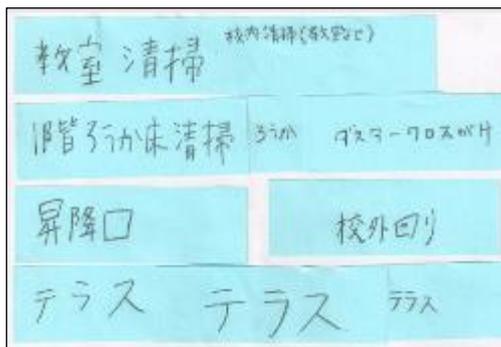
2次アンケートの例

会社ごとに集まり、何を行うか相談する。グループ内の生徒全員の意見を吸い上げるため、各生徒が行いたい事を付せんに書いて発表し合う。次に、KJ法でなかま集めをして、グループの意見をまとめる。その際、自主性の大切さを説く下記の考え方を大切にしている。

「同じことでも、命令されてやれば、かったるく感じる。逆に、自由にやっていると、俄然やる気が出る。どちらがいい結果を生むか想像することはたやすい。」
山本美芽『りんごは赤じゃない』、新潮社、2002、p.68.

ウ. 予定を立て、活動する

各社ごとに、活動期限までにやりとげたいこと（ゴール）を決め、活動予定表を書く。その際、人の役に立つことに気付けるよう「誰の喜びのために行うか？」を全員で確認し、活動予定表に記入しておく。



各生徒が書いた付せんの一部

社名	[]	学年	[]月
1	社員(生徒職員計5名以下)	() () () () ()	
2	誰の喜びのために行うか?	()	
3	何を行うか?	()	
4	ゴール 「2月2日までに () が () になっている」		
5	モットー (学校の行動で、心がけていくこと 例: 楽しくなる行事)	()	
6	活動予定		
日	期	時間	活動内容
19日	金	1~3	会社活動導入(活動計画、用具箱など)
22日	月	1~4	会社活動①

会社活動の活動予定表

3. 工夫点

- ・教師も社員の一人であり、生徒と同じ目の高さで同じ活動を行う。師弟同行。
- ・生徒が苦手なことを改善するよりも、得意なことを伸ばして自信を持たせる。

4. 実践の評価 (成果と課題)

(1) 成果

- ・自分たちが決めた活動なので、やる気と責任を持って取り組む生徒が多い。
- ・自分が選んだ活動をやり遂げて達成感を味わい、清掃が好きになる生徒が多い。
- ・教師の指示がなくても、足下のゴミに気付いて拾ったり、「～して良いですか？」と教師に聞いて活動したり、自分から進んで働く生徒が増えている。
- ・学期毎に活動グループを変えて様々な生徒・教師と働くことで、協調性が高まる。
- ・縦割りグループの活動で、先輩がすすんで働く姿を見て、後輩達は学んでいる。
- ・自分で考える習慣がつくことで、色々なことに気がつく生徒が増えている。(授業後にみんなの椅子を揃えて入れる、県清掃検定終了後に体育館の床のごみを手で拾うなど。)

(2) 課題・展望

- ・生徒たちは精一杯がんばるので、その日の活動予定が時間よりもかなり早く終わることがある。その際、廊下のモップがけなど新たな活動を追加することが多い。
 - 働いた生徒に、私たちの給料に当たる報酬を与えたい。例えば、目標を達成したら、休憩時間を長くする、レクを行う、石焼き芋を作って食べるなど。
- ・家庭でできる掃除・洗濯などの家事を活動内容に取り入れる。その成果を家庭で発揮することで、保護者に褒められ、自己肯定感を高められるようにしたい。

5. その他 (参考文献等)

- ・岩瀬直樹『「最高のチーム」になる！クラスづくりの極意』農文協、2011.
- ・鍵山 秀三郎『マンガでわかる！「掃除道」心を磨くトイレ掃除』 PHP 研究所 2007